

10 南湖公園（白河市）



それらの花の間を縫うように飛ぶ大型のトンボや、湖中の小島にはえるアカマツにはコサギがコロニーをつくり夏の風物詩の一つとなっている。周辺山地のアカマツ林ではシジュウカラ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラなどが見られ、キジ、ヤマドリ、またオオルリやキビタキの声を聞くこともできる。南湖17景16勝の名勝地にはそれぞれ歌碑があり、小鳥の声に耳を傾けながら碑を訪ねるのも楽しい。

秋、コナラやカエデが色付きを増すころ、ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカなどが姿を現す。湖面には11月頃よりカモ類の数が増しオナガガモ、マガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、コガモなどが2000羽を越すことがある。ハクチョウ類も例年100羽前後の渡来を見ている。

環境

南湖は白河藩主松平定信が享和元年（1801年）に、失業者の救済と灌漑用水とを兼ね、市民共楽のために湿地帯を開拓して作った人工湖である。南湖公園はわが国最初の公園といわれ国の史跡名勝並びに県立自然公園に指定されている。

その周辺は植栽されたアカマツやサクラの並木と、山地のアカマツ、クリ、コナラを主とする低山帯樹林、また南湖神社の社叢などが複雑な環境を構成し、周辺一帯は禁猟区でもあり、四季を通じて野鳥の楽園となっている。

季節

湖畔には一周できる遊歩道があり、春のサクラの時期には蜜を求めてメジロやヒヨドリが集まり、湖面にはカイツブリやカルガモが泳ぎ、時折カワセミの飛ぶ姿も見られる。盛夏の湖岸のアシ原ではオオシキリが鳴き、托卵性のカッコウやホトトギスも訪れる。湖面にはスイレン、ジュンサイ、ヒツジグサなどが繁茂し、コウホネの黄色い花も美しい。

交通

JR東北新幹線「新白河」からJR南湖行きバス約10分。車利用の場合は、湖の西側に駐車場がある。

